（精神科専門）訪問看護ステーション　ラポールちかもり

所長　杉村　多代

活動状況

2022 年は、4 月に常勤が 1 名異動し、1 名が非常勤から常勤となり、常勤換算では 6 名となった。

2022 年も新型コロナウイルス感染症の影響は続き、利用者・職員関連含めキャンセルが 80 件となった。担当制で訪問看護を実施している中でも、必要時に応じて訪問できる体制が整いつつあるが、キャンセルせざるを得ない状況もあった。

利用登録者数は月平均 143 名（昨年比 6 名減）、訪問件数は 374 名と昨年より 17 名減となった（グラフ 1）が、これは約 10 年ぶりに登録者、件数とも前年度比で減少したことになる。

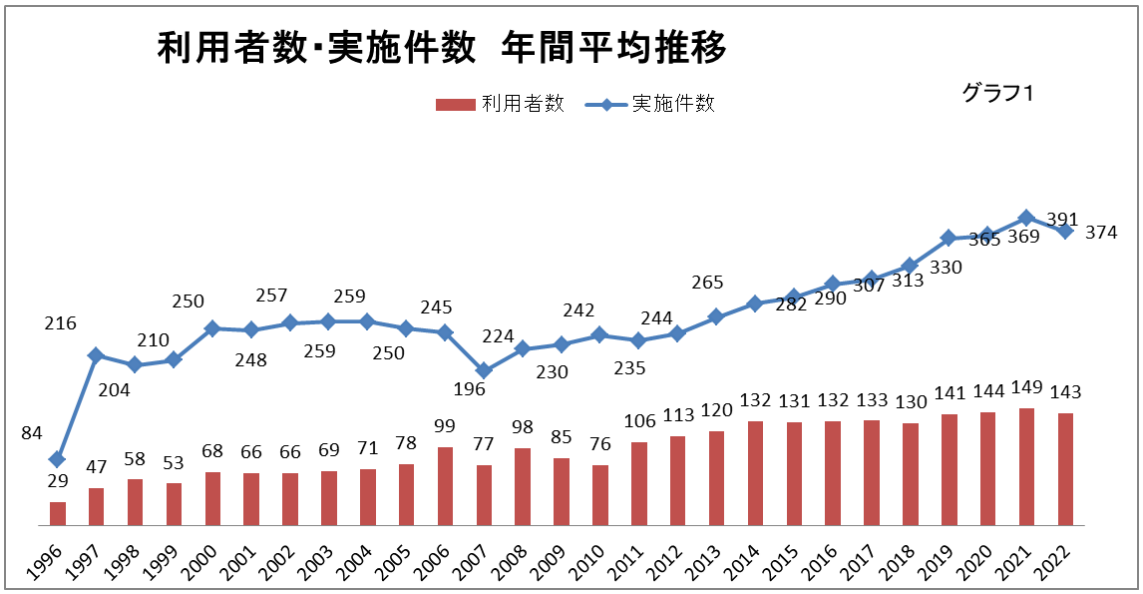
新規利用者は 20 名と昨年に比して 13 名少なく、終結や中止した利用者は 24 名（昨年比△10 名）だった。終結等の理由の「必要を感じない」は昨年の 9 割から 4 割に減り、次点は「ステーションの変更」であった。他は通院先の変更（県外含む）や施設等への入所、身体面での不調により入院等死亡したことでの終結もあった。

キャンセル件数は 482 件で件数は昨年比＋72 と多かった。内容は、事前連絡が 73%、事後連絡は 27%で昨年とほぼ同じ割合であった。この中には新型コロナウイルスの影響を受けてのキャンセル 80 件も入っている。訪問してもほとんど出てこない利用者には状況を考えつつ訪問継続ができる工夫を続けているが、受診自体難しい場合は継続が難しい状況である。

高知県下で精神科を専門とする訪問看護ステーションも増加している中で事業継続をするためには、専門職としての質や日々の看護実践を向上が必須である。研修参加は、オンラインで参加できるものが増えたことから、格段と多く参加できるようになった。内容は伝達講習により全員に報告し、実践に還元できるようにしているが、職場内での伝達講習が追い付かないほどであった。

全国では今年も残念ながら精神科病院関連の虐待事件があった。訪問看護は基本一人で訪問することから、倫理的、法的な実践は必須であるため、日々振り返り醸成し続ける組織としていく。

（グラフ 1）



学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
大規模地震等の自然災害発生や新型コロナウイルス感染症等を想定した訪問看護ステーション間の連携への取り組み	共同研究者として 杉村多代他 （発表者：細木病院　井上加奈子）	日本災害看護学会第 24 回年次大会(大会長　高知県立大学　竹崎久美子)	9月 3 日 高知　ＷＥＢ開催